

お問い合わせ ●電話 075-344-1305 ファックス 075-344-1327
 ●開館時間/9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
 ●休館日/水曜日 (休日の場合は翌平日) 12月28日 ~ 1月4日

博物館からのお知らせ

企画展 まなびの道具大集合！ - むかしの道具で科学をしよう -

期間 平成25年2月2日(土) ~ 5月7日(火)
 昔なつかしい理科の実験機器から、たのしい貴重な学習教材まで、一堂に公開いたします。

関連イベント「つかってみよう！むかしの実験道具」

日時 平成25年3月23日(土), 24日(日) 10時 ~ 12時 (要申込)
 春の星座のを見つけ方・理科実験機器の実演など、親子で楽しめるイベントです。

※詳しくは、平成25年1月発行予定の企画展チラシ、または当館ホームページにてお知らせいたします。



風俗人形「寺子屋」
元明倫小学校蔵

体験教室

内容	日	時	対象
親子で六角凧作りに挑戦！	12月23日(日)	午前10時~12時, 午後2時~4時	小学生と保護者
日本刺繍教室	2月3日(日), 4日(月)	午後1時~4時	大人

教室講座

内容(大人対象)	日	時
館長談話室	毎月第3火曜日	午後2時~3時 ※毎回募集
唱歌・童謡教室	2月25日(月)より毎月曜日(5回連続)	午後2時~4時
合唱教室	毎週金曜日	午後2時~4時
日本画教室	隔週火曜日	午後2時~4時30分

※日程など変更の可能性があります。
 ※申込方法などの詳細は、当館までお問い合わせいただくか、当館ホームページまたは「市民しんぶん」をご覧ください。

当館では、団体観覧を歓迎いたします。

お客様の人数・目的・学年などのニーズに合わせて、オリジナルの観覧メニューをご提案いたします。

今年度、観覧して下さった団体は、洛央小、柘野小、静原小、嘉楽中、同志社大、龍谷大、京都女子大、京都ノートルダム女子大、京都工芸繊維大、甲南大、本能デイサービスセンター、グループホーム太秦、吉祥院小教員研修、開智小学校同窓会など。「総合的な学習」の一貫として、教育学部や教員養成課程の授業として、研修として…。

京都市内の小中高生は、無料で観覧できるコースもあります。詳しくは、お気軽にお問い合わせください。

本紙2ページ目も
ご覧ください



(静原小のみなさん)

京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町仏光寺下ル橋町437 (元開智小学校)
 TEL. 075-344-1305 FAX. 075-344-1327
 URL http://kyo-gakurehaku.jp

- 入館料/大人200円 子ども(高校生以下)100円 (20名以上の団体/大人160円 子ども80円)
- ※京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間/9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/水曜日(休日の場合は翌平日)



- 阪急電車「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄烏丸線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 京阪電車「祇園四条」駅下車 南西へ歩10分
- 市バス「四条河原町」停下車 南西へ歩5分
- 市バス「河原町松原」停下車 北西へ歩3分

【クイズの答え】Q1 京都市立開智小学校 Q2 64校 Q3 ○ Q4 電金(かまどきん)



京都市学校歴史博物館だより

VOL. 24

平成24年11月発行



正門・石堀は国の登録有形文化財

本館は、京都の学校の歴史に関する資料の保存・研究・展示を行う博物館です。

企画展

学校で出会う 京都の日本画

開催期間

平成24年10月5日(金)
 ~ 平成25年1月22日(火)

※11月29日(木)以降は後期展示となり、
 展示作品が一部変更されます。

京都の市立学校には絵画などの美術作品約2000点が所蔵されています。これらの作品は、画家や地域の人たちによって学校へと贈られ、校舎を飾り、子どもたちや先生に愛されてきました。

本展では、京都の学校に伝わる日本画を一堂に展示し、江戸期の作品から近代の作品まで幅広くご覧いただけます。

学校という場所で、世代をこえてたくさんの人によって伝えられてきた豊かな作品の数々を、ぜひご覧ください。

(学芸員 森光彦)

主な展示作品

上村松園《静御前》(元竹間小学校蔵)

小野竹喬《風景図》(衣笠小学校蔵)

橋本関雪《波にかもめ》(元教業小学校蔵)

他 日本画約100点を前期・後期に分けて展示



木村斯光《お手玉》 元日影幼稚園蔵



学校に贈られた日本画には、画家や地域の人たちから、子どもたちへのメッセージが
 つまっているんだよ。



展示室の様子

ウィムシャースト感応起電機

島津製作所製 元本能小学校蔵

このSF映画で見ると不思議な道具は、物理の実験機器です。手で高圧の静電気を発生させることで、電気が発生する仕組みを学ぶことができます。

それぞれ逆方向に回転する2枚のガラス円盤上に発生した静電気が、2本のビンにためられ、ビンがいっぱいになったら、火花を上げて放電する仕組みになっています。

この写真の感応起電機は、元本能小学校の所蔵品で、学区の前田治助さんという方が寄贈されたものです。

初めて火花放電を見た本能校の子どもたちは、どれほど驚いたことでしょう。治助さんは、その驚きが探求心が変わることを願って、高価な機器を寄贈されたのではないのでしょうか。子どもたちの感謝の気持ちの表れでしょうか。起電機の台には治助さんの名前が書かれています。この機器は今でも立派に使えます。

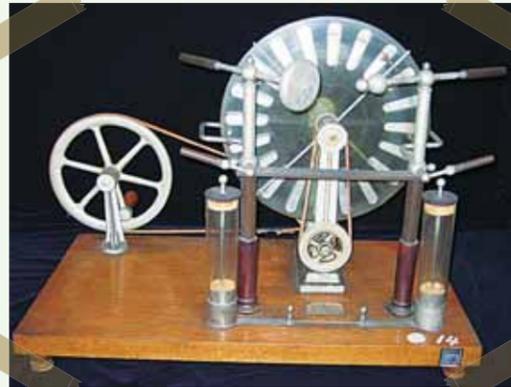
この感応起電機は、平成25年2月2日(土)から5月7日(火)まで開催予定の企画展「まなびの道具大集合! -むかしの道具で科学をしよう-」でご覧いただけます。(学芸員 小林昌代)

前田さんという人が、学校に寄贈したんだね!



レッキーちゃん

所蔵品紹介 第2回



まな 学んで楽し の 楽し

歴博クイズ!

Q1

京都市学校歴史博物館のある場所は、昔は何という小学校だったでしょうか?

Q2

明治2(1869)年、京都では日本で初めて学区制小学校(番組小学校)が設立されました。この年、京都にはいくつの小学校が誕生したのでしょうか?

Q3

京都の番組小学校は、消防署、警察、保健所などの役割もはたしていた。○か×か。

Q4

番組小学校を運営するために、学区のお家からお金を集めました。このお金のことを何と言うのでしょうか?

正解は裏面にあります。詳しくは当館第1展示室へ!



金次郎くん

学校団体観覧~「学びの場」としての博物館~

8月28日、京都工芸繊維大学の教職課程の学生さんが、団体観覧にやってきました。

展示室に入ったみなさんは、博物館の雰囲気に対し緊張気味の様子。しかし、熱心にメモをとりながら展示室を進んでいく中で、母校の写真や宝物が展示してあるのを見つけると、まるで忘れていたタイムカプセルを見つけたかのように喜び、昔の出来事を語り合う場面もありました。また、島津源蔵が開発し明治の理科教育に取り入れられた実験器具「真空ポンプ」や「列田瓶」などには興味津々。器具の原理や島津製作所と学校のかかわりなどを学んだようです。



担当学芸員の解説による企画展の見学では、学童集団疎開先での児童の生活を知り、また戦中戦後を時代とともに歩んだ一教師・大橋まりの人生に触れました。はじめは表情の固かったみなさんですが、最後には活発な質問会が行われ、和気あいあいと意見交換をしていました。



日本画教室 作品発表会を開催しました

当館では、教室事業のひとつとして隔週火曜日に橋田純先生(日本画家)による日本画教室を開講しています。9月1日から10日間、教室受講生による作品発表会を開催しました。大きい作品や小さい作品、華やかなもの、素朴なものなど、受講生の個性あふれる作品の数々が並びました。受講生の日本画に対する熱い思いが伝わったのか、たくさんの方々に足を運んでいただきました。最終日には当館の上村淳之館長による作品講評会を行い、今後の日本画との向き合い方や、日本画を描く喜びを噛みしめたみなさんでした。



日本画教室講師 橋田純先生よりひとこと

火曜日の日本画教室を担当させていただいています。私自身、まだまだ勉強中ですが、生徒さん同士でも批評し合っていて楽しく描いておられ、とても雰囲気の良い教室です。

この度、初めての発表会を開催できました。たくさんの方々の協力により良い作品展になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

市民学芸員ボランティアより一言

「番組小学校を支えた人々」

入館され、ぬくもりある木の椅子に腰を下ろされたお客様は、明治2年以降の小学校変遷図を前にすると、指導的立場にあった方々や、町衆の教育にかける思いの深さと自治意識の高さが相まって、64番組小学校を開校させた原動力になったことが、胸に落ちるようです。

映像ホールでは、地域の人々が京都府から借金しつつ、学校運営費の捻出に苦勞され、それでも学校名入り鬼瓦を焼き、絵画や陶芸品を寄贈し、試験監督を担い、幼稚園や盲啞児童教育を開始し、理化学分野振興の為に理化学機器を購入する一方、伝統産業振興の為に、毛筆での日本画の基本を取り入れ、学区の子ども達の為に尽くされたことの一生涯懸命さが伝わってきます。

また、学校教育に洋風が取り入れられていったのも、文章、計算、図面を理解できる基礎や基本の力が高度に育っていたことが大きいといえます。英語とドイツ語単語がカリキュラムにある一方、明治期は進級試験が難しくもあり、明治6年に30%であった就学率を高める(特に女子)ため、夜学も実施され、98%を超えるのは、全国的に明治40年(1907年)以降とか。

その時々学校が抱えている様々な課題を解くヒントを求めて訪れる方々にお伝えできることや、共に考える場として存在感ある当館の重要性が高まっていくよう、活動できる機会を大切にしていきたいと思っています。

たけもり ますこ 竹森 培子

